

佐久山の会

佐久山の会は、1966年、佐久勤労者山岳会として、佐久地方の高見澤電機・佐久市役所・佐久病院関係者を中心とする登山愛好家によって、「安く・楽しく・安全に!」・「ハイキングからヒマラヤまで!」・「故郷の自然を守ろう!」をスローガンに掲げ結成されました。

1974年に「佐久山の会」に改名し、会員数が100名を超える山岳会に成長したため、1975年にクライミング志向の高い会員を中心にした「佐久アッセントクラブ」を分離独立し、佐久山の会はハイキングからヒマラヤまで多くの会員に受け入れられる総合山岳会を目指しました。

早くから海外登山に目を向け、1974年に上部組織の「長野県勤労者山岳連盟」の初の海外遠征であるインドのビハリジョット(6,290m)に隊員を送り出し、今日まで多くの会員がヨーロッパアルプス・ヒマラヤ・北米・南米・オセアニア・アフリカ・ユーラシアなど世界の隅々まで海外登山・トレッキングに参加しました。会員の中にはヒマラヤ8,000m峰14座の内、4座挑戦し3座無酸素登頂者もいます。

登山だけでなく自然保護活動にも力を入れました。今から50年以上前は登山道に設置してあるごみ箱がいっぱいになるとその周辺はごみであふれていたため、「ごみ持ち帰り運動」を啓蒙活動とする清掃登山「佐久地方の野山を美しくする日」クリーンハイキングを、国連の「世界環境デー」に合わせた6月に毎年、佐久地方の山岳会と共同で長年にわたり活動しています。

佐久山の会の基礎となる活動の一つに、創立2年目から開催している「送年山行(そうねんさんこう)」があります。毎年12月第2土日に、会員が経営する北八ヶ岳の「しらびそ小屋」で、一足早いクリスマスパーティーを行い、翌日には東天狗岳に登り、冬山入門者から熟練者まで交流の場になっています。

佐久山の会は老若男女問わず、日本百名山・バリエーションルート・冬山登山・バックカントリーなど多義に渡り、会員・会員外を問わず気の合う仲間を誘いあう登山活動をおこなっています。



第47回クリーンハイキング：蓼科山山頂



送年山行：東天狗岳山頂